

令和6年1月1日能登半島地震被災に伴う「飛騨みやがわ考古民俗館」の
レスキュー活動実施報告書

2024.05.03

岐阜県博物館協会 もの部会

■ 経緯

1月1日、能登半島地震発生時に、飛騨市「飛騨みやがわ考古民俗館」所蔵の展示資料が被災。その中には岐阜県重要文化財「堂ノ前遺跡出土品」（435点）の一部が含まれる。

2月18日、飛騨市教育委員会より岐阜県博物館協会へ被災状況の調査確認と文化財に関する技術指導の依頼があり、それを受け2月20日に現地にて可児企画委員長が事前調査・協議を実施。

3月30日、岐阜県博物館協会もの部会による「飛騨みやがわ考古民俗館調査事業」を立ち上げ、レスキューの方針と活動内容について協議を進めた。

4月25日、もの部会を中心に19名で飛騨みやがわ考古民俗館の被災資料の修復、および展示資料類の防災展示措置を行い、あわせて展示・保存環境に関する意見交換を実施した。

なお、被災資料が岐阜県の指定文化財でもあったことから岐阜県文化伝承課の担当者も加わり修復作業の確認を行うとともに、県内の文化財保護の観点からレスキュー活動に参加協力した。

■ 活動概要

◇被災資料：縄文土器 10点、民具土雛 2点、オルガン 1点（計 13点）

◇活動日時：令和6年4月25日(木) 11:30-17:30

11:30－ 現場確認、作業分担(土器接合・考古・民具)、担当班内での作業内容・段取り確認

12:15－ 昼食

13:00－ 作業再開

16:30－ 作業終了、本件・今後の防災処置についての意見交換会

◇参加者（順不同、敬称略）

・岐阜県博物館協会もの部会（7名）

正村美里(岐阜県美術館/もの部会長)、井川祥子(岐阜市歴史博物館)、長谷健生(各務原市歴史民俗資料館)、花井素子(岐阜県現代陶芸美術館)、南本有紀(岐阜県博物館)、森島一貴(関市文化財保護センター)、齋藤智愛(岐阜県美術館/もの部会事務局員)

・岐阜県博物館協会加盟館員等（4名）

可児光生(美濃加茂市民ミュージアム/岐阜県博物館協会企画委員長)、近藤大典(岐阜県博物館)、砂田普司(瑞浪市陶磁資料館)、玉腰雅美(高山市文化財課)

・岐阜県県民文化局文化伝承課（1名）

小林新平

・飛騨市教育委員会文化振興課（7名）

三好清超、大下永、保谷里歩、木下孔暉、畠中裕子、橋本真由美、垣添敦子

1) 被災文化財・資料の修復について

・土器接合を含む作業等

◇参加者

岐阜県博物館協会考古系メンバー

飛騨市教育委員会：畠中、垣添

◇内容

飛騨市教育委員会の作業員が、破損した土器を接着剤、Q テックス（飛騨市所有）、クレイテックス（関市文化財保護センター提供）等の一部使用し接合する作業を見守った。途中、作業員と県博物館協会・もの部会員の考古系メンバーが意見交換などを実施した。なお、岐阜県文化伝承課小林新平氏による県重要文化財修復作業補修等の確認が行われた。

関市文化財保護センター提供のクレイテックス（Q テックス）は水を加えるだけで使用できるので、以前使用していた3種配合のQ テックスより作業効率が良かった。



土器修復作業



新提案素材_クレイテックスによる修復

2) 展示資料の防災に関する措置

・考古資料エリア

◇参加者

岐阜県博物館協会・もの部会：近藤、砂田、玉腰、井川、森島

飛騨市教育委員会：三好

◇内容

ガラスケース内にある展示資料を一時的に安全な場所へ移動しながらケース内を清掃した。その後、土器資料の耐震対策としてシリコンチューブ、シリコンシート、テグスなどを使用し、資料や展示環境に合わせて耐震対策の展示復旧作業を行った。

考古資料が置かれているフェルトに虫害を発見したため、フェルトを撤去しシリコンシート（県美術館提供）に変更した。

また、資料破損が起きた展示台の揺れについて検証を行い、展示台の耐震補強について意見交換を行った。

◇今後について

- ・考古資料展示に使用するシリコンシートの厚み等はそれぞれの底面にあったものを選ぶ必要がある。
- ・底が丸い土器は、φ8mmチューブ（県博物館提供）を円状に丸め台として使用する。
- ・資料展示に使用するウェイトは玉鉛の1～2mmを使用した方が器形にフィットし、重心が安定する。文鎮使用の際は土器の養生、加重負荷分散のため薄葉紙をくしゃくしゃにし間に入れる。

- ・土器展示台座の底部、土器と接する部分にシリコンチューブ（切込を入れたもの）を設置すると、耐震対策、土器の養生（保護）に有用である。



考古エリア_清掃作業



考古エリア_土器固定作業(シリコン+ウェイト等)



土器種別_シリコン・固定資材の選定



ガラス棚横揺れ防止の検討

・歴史・民俗資料エリア

◇参加者

岐阜県博物館協会・もの部会：南本、長谷、花井、正村、齋藤、可児

飛騨市教育委員会：大下、保谷、木下

◇内容

措置対象資料は事前に三好氏が調査を行い、優先順にマーク済みであった（対象資料：のこぎりや狩猟用の槍等の刃物類が有孔ボードにフックに掛けた状態、鋭利な金物が付属する民具は台へ置いた状態）。安全面の観点から地震などで資料が動き来館者と接触しないよう固定、有孔ボードはテグスで固定、台上展示品はピンとテグスで固定する作業を行った。有孔ボードはピンが効かないため穴にテグスを通す作業が発生、布団針があれば役に立った。

転倒して一部破損した土雛をケース内で復旧したが、現状では寝かせた状態での展示が倒壊・破損を防ぐ一番の手立てと考えた。敷布のフェルトは劣化し虫害発生していたため、土雛(自立不安定なものは寝かせた状態)の下に滑り止めシートを入れた。

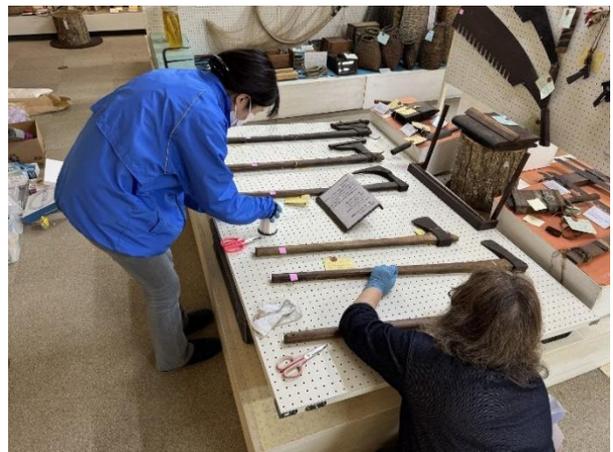
◇今後について

- ・土雛を展示しているガラスケースや額等が固定されていないため、早急に固定・耐震補強が必要である。全体的に展示ケース自体が倒れないよう対策が必要。

- ・民俗資料エリアの照明器具類が未固定の有孔ボードに手作りの部品で装着され、安定性が確保できていない。照明の配線が金具の下に潜り込み圧迫されている等、危険な箇所があった。天井照明も切れているなど、照明、器具、設置状況について全面的な見直しが必要と思われる。
- ・テグスの種類については、3～5号は細く民具の固定に不向きであった。8～30号を使用した。
- ・刃物や通路にはみ出ている資料展示もあり、耐震対策として固定は必須である。
- ・壁時計や額類はフックと資料のヒモを固定するなど落下防止対策の必要がある。応急処置として輪ゴムを用いても良い。額の吊るし紐、ワイヤーなどはタッカーで壁にうち、揺れ止めが望ましい。
- ・ケース内の布、敷紙などは虫害や汚れ発見対策のためない方が良い。現状を確認すること。



民俗資料エリア全体



刃物_有孔ボード穴にテグスを通し固定



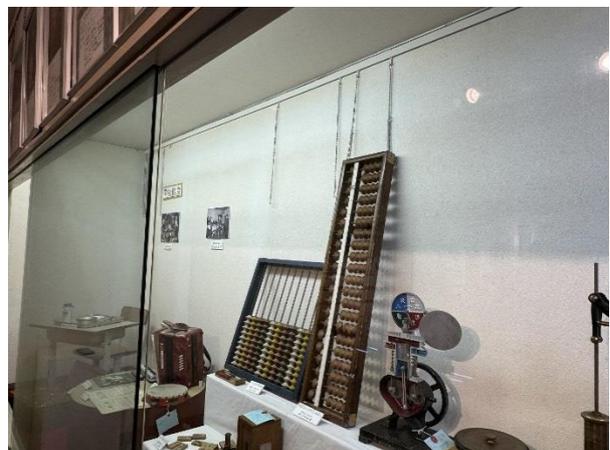
不安定な照明



民俗資料エリアの清掃



土雛_横にする、滑り止めシートを入れる



そろばん等_テグス固定で転倒防止

3) 今後に向けて

作業終了後、活動を通して展示、防災に関する道具や資器材や展示環境に関すること、今後の協会の活動などについて気づいた点について参加者で意見交換・検討を行った。

◇施設の展示保存環境への提案

- ・古文書類については、大変貴重なものが長期間展示されていた。中性紙封筒などに保管したほうがよいのではないか。別途、もの部会より中性紙支給。
- ・防虫剤を新しいものに変えたが、防虫・忌避剤として資料に適切なもの・方法を検討しては。
- ・熊の剥製が虫害を受けていた。剥製は他資料と区分け展示し、燻蒸する必要がある。剥製の緊急対応として密閉状態でバルサンを焚くなど対策する必要がある。
- ・木製台なども虫害発生があり、館全体の虫害調査・対策が必要。
- ・旗などの布資料が直接ピンで壁に固定されており、資料に負荷をかけない展示方法へ変更の必要。
- ・貴重資料保存のため、施設の温湿度調査・対策を行っては。温湿度計(もの部会所有)を飛騨市に送る。

◇博物館協会(もの部会)活動として

○レスキュー時

- ・レスキュー活動では、対象によって使用する道具が全く異なることが明らかになったので、活動前の事前調査が重要であることがわかった。また、展示資料には民具が多数含まれており、準備した資材や民具固定用の大きなピンが不足した。また金槌も必須であった。
- ・事前の情報共有には動画やオンラインなども活用する。

○平常時

・今回の活動に際して持ち寄られた資器材は参考になるものが多く、それらを広く伝える「防災展示資器材試供品パッケージ」を製作することが提案された。

[試供品内容]

展示する資料、作品ごとに対応可能な数種類(厚さ、太さなど種別)のシリコンシート、シリコンチューブ、テグス、ピンなど。他、玉鉛のウェイトなど資料、作品に使用するに際して事前検討が必要な資器材をまとめたもの。

- ・適正なものが見つかった場合は自館購入・導入するなど、導入のきっかけになるとよい。最終的には耐震・落下防止など資料・作品に関する防災対策となると思われる。

4) 活動を振り返って

- ・今回の参加者は、飛騨市からの要請に応じてもの部会から会員等に声がけしたところ、早々に多くの方から事務局に参加の意向をいただき、結果12名に絞ったものであり、大変有難いことだった。
- ・参加者は多分野にわたっていたため、分野ごとに資料保全や展示手法、資器材や工夫に特色や違いがあることがわかりお互いに参考になることが多かった。
- ・今回の被災情報は飛騨市の担当者の「小さいとこネット」のメールからであった。個人が発信する情報の大事さを改めて知ることができた。
- ・現在の「岐阜県博物館協会ミュージアムレスキュー活動要綱」の実践的見直しも検討する必要があると感じた。
- ・今回このように協会加盟館園が相互に組織的に協力し合った連携ができたことは意義深いと考える。

令和6年能登半島地震に関する岐阜県博物館協会（もの部会）対応経過

2024.1/1 ・地震発生

- 1/4 ・飛騨市被災状況の把握（メーリングリスト「ちいさいとこネット」における飛騨市担当者の投稿）
・飛騨みやがわ考古民俗館の被災
- 1/6 ・企画委員長ともの部会会長などに対応打ち合わせ
・「レスキュー活動要綱」に基づき、活動開始
（・日本博物館協会への照会（石川県等被災県博物館協会））
- 1/7 ・被災地：飛騨市へメール送付（お見舞い・状況のお尋ね）
・被災地：高山市へメール送付（お見舞い・状況のお尋ね）
- 1/7 ・岐阜県博物館協会事務局より、加盟館へ被災状況の確認メール配信 →飛騨市以外になし
- 1/10 ・企画委員長ともの部会会長など今後の方針協議
・被災地：飛騨市へレスキュー支援キット（リスト情報）を送付
（1/11～17 ・石川県博物館関係者（金沢ふるさと偉人館：山岸氏）への連絡）
（1/11 文化財防災センターによる、北陸被災状況調査の開始）
- 1/12 ・全国史料ネットによる情報交換会の開催：オンライン参加（可児・飛騨市について報告）
- 1/16 ・被災地：飛騨市へ、レスキュー支援キットを送付
（2/17、2/18 第10回全国史料ネット研究交流会 in 首都圏に参加）
- 2/18 ・被災地：飛騨市（飛騨市教育委員会文化振興課長名）より、岐阜県博物館協会へ指導依頼
- 2/20 ・被災地：飛騨市担当者と飛騨みやがわ考古民俗館にて被災状況確認協議（可児）
- (3/20) ・地域歴史文化大学フォーラム「東海地域の文化財保護体制を考える」（オンライン）で
岐阜県博物館協会のレスキュー活動事例を発表（可児）
- 3/30 ・もの部会から2月18日付の飛騨市からの依頼文書をもの部会員に周知するとともに令和6年第
1回もの部会活動として「飛騨みやがわ考古民俗館調査事業」を立ち上げる
- 4月上旬 ・もの部会員を中心にレスキュー参加者を募る。18日までに、現地の飛騨市教育委員会三好氏を
中心に、岐阜県博物館協会企画委員長、もの部会、高山市教育委員会12人の参加が決定
*別途、岐阜県文化伝承課から県指定文化財調査の連絡あり
- 4/13～ ・情報共有 人間文化研究機構理事（一橋大学）若尾政希、人間文化研究機構（歴博）小野塚航
一（4/13）、文化庁博物館支援調査官 中尾智行（4/19）、文化財防災センター 小谷竜一（4/22）
- 4/18 ・飛騨市教育委員会が飛騨市として本事業について広報発表。
- 4/21 ・参加者、関係者に当日の詳細スケジュールと参加者名簿をメール配信
- 4/25 ・レスキュー活動実施
- ～5/3 ・参加者を中心に報告書を作成